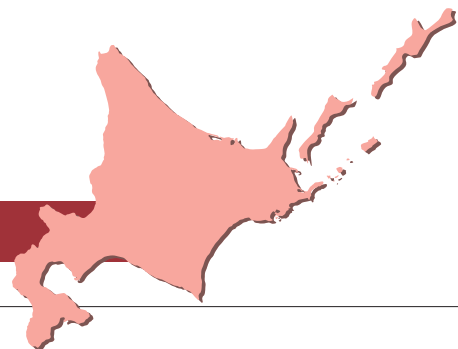


7月の道内景況

情報連絡員レポート

主要DIは回復が見られるも 今後の動向には不透明感が残る



概況

全業種の主要DIは、3項目全てで改善が見られ、特に「売上高」は令和元年9月以来1年10か月ぶりにマイナス水準を脱する結果となったものの、コロナの影響で大きく落ち込んでいた昨年同月の水準から回復したとは未だ言えない状況にある。

業種別の比較では、製造業は「販売価格」「取引条件」「雇用人員」の3項目で小幅ながら落ち込んだ一方、非製造業では全ての項目で回復が見られ、とりわけ「売上高」は前月比プラス31.0ポイントと大幅に改善した。

情報連絡員報告によると、製造業は、建築材や鋼材の世界的な価格高騰による収益の急激な悪化や原料供給不足への対応に苦慮しているとの声が多く聞かれた。非製造業では、4連休やオリンピックの「お祭りムード」から、飲食や観光関連業を中心に持ち直しの動きが見られたが、燃料小売業の一部など連日の記録的な猛暑が需要を押し下げ売上減少となっている。

主要DIの推移



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比	6月	7月	前月比
業界の景況	△28.9	△22.7	6.2 ↗	△18.8	△10.0	8.8 ↗	△34.5	△29.3	5.2 ↗
売上高	△22.2	0.0	22.2 ↗	△3.1	3.3	6.5 ↗	△32.8	△1.7	31.0 ↗
収益状況	△31.1	△20.5	10.7 ↗	△18.8	△10.0	8.8 ↗	△37.9	△25.9	12.1 ↗
販売価格	1.1	6.8	5.7 ↗	6.3	0.0	△6.3 ↘	△1.7	10.3	12.1 ↗
取引条件	△11.1	△3.4	7.7 ↗	6.3	3.3	△2.9 ↘	△20.7	△6.9	13.8 ↗
資金繰り	△11.1	△9.1	2.0 ↗	△12.5	△6.7	5.8 ↗	△10.3	△10.3	0.0 →
雇用人員	△10.0	△8.0	2.0 ↗	△3.1	△3.3	△0.2 ↘	△13.8	△10.3	3.4 ↗

(凡例)

30 以上

10 ~ 29

9 ~ △ 10

△ 11 ~ △ 29

△ 30 以下



天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI)をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

製造業

- ・コロナの影響で、小売部門の多い企業のダメージが大きい。原材料の高騰が止まらず、収益が急激に悪化している企業が増加している。（水産食料品／小樽）
- ・オホーツク海では、沖底船によるスケソウ漁獲を主とした操業を実施している。すり身需要高の背景により、ある程度の価格が維持されている。組合員の加工場は、ホタテ加工中心で稼働しており、昨年より見込漁獲量増加、品質も良好とのことである。例年 8 月から鮭・マスの時期に入ってくるが、今年の漁獲量は昨年比減の見込みであり、今後の漁獲増を期待するも厳しいと予想している。（水産食料品／網走）
- ・コロナの感染拡大が収束しない限り、業務用市場の低迷は続くと思われる。（味噌・醤油／全道）
- ・観光チャネル・業務用チャネルは依然厳しい状態が続いている。（飲料／全道）
- ・製材市況、原木市況ともにエゾ・トドマツ、カラマツ強保合。カラマツ原木は梱包等の受注が増加し、在庫増しに動く気配が出てきている。梱包、ラミナ、製材の受注は順調で、本格的に動きつつある。エゾ・トドマツ原木も、今後は国有林等から供給がある模様だが、需要をカバーできるか懸念がある。製品受注は旺盛にあるものの、原木の不足感も出ている。紙原料は、地域によっては紙需要が大きく減少した結果、余剰が発生しているとの話も聞こえる。外材の高騰により輸入製材の入荷が少なくなっており、建築材の取り合いの動きが激化している模様。（一般製材／全道）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

- ・オリンピックのお祭りムードで消費者の自粛が緩くなり、前月比で売上が増加した企業も多いが、前年対比ではほとんどの企業が減収、収益も低下している。（各種商品／札幌）
- ・7 月期の当組合買付高は仲卸、荷受合計で先月実績を上回った。慣れにより市中における行動自粛の意識が薄れ、飲食を中心とした行動規制の抑止力が効かず需要増大となったようだ。7 月はいわゆるお中元シーズンであり、ギフト用の果物需要も買上高の増加につながったと思われる。天候面に関しては、7 月下旬以降の全国的な熱波の影響が今後の作況に重大な懸念を与えそうだ。（野菜・果実／札幌）
- ・外出自粛に加え、7 月中旬以降は高温が続いたため、流通菓子にとって厳しい環境だった。大手小売チェーンを中心に価格競争が強まりつつあり、取引案件も値下げ要求が多い。（菓子／全道）
- ・業種別では、家電が好調で、猛暑の影響から白物家電と、オリンピック需要でテレビが売れている。燃料は単価の上昇により売上が増加した。緊急事態宣言が解除されたことで、観光客も目立つようになり人流は増加しているが、会食の人数制限は続いており、飲食店は依然として厳しい状況が続いている。金融は昨年比 115.5%と増加しているが、一昨年比では 65.0%であり、需要は戻ってはいない。（各種商品／旭川）
- ・7 月初旬は緊急事態宣言の影響で客足は鈍かった。中旬頃からオリンピック開催を受けてか観光客が増加したが、買い物の単価は低く、月末特売でも単価の低さは変わらなかった。お中元や飲食店向け業務用の注文も回復していない。（各種商品／小樽）
- ・7 月取扱高は前年比 99%と厳しい状況が続いている。北海道全域でコロナが拡大していることから、商店街の人通りは以前と変わらない。市内ホテルでは宿泊客が増加しており、観光客やスポーツ団体等の客が増えている模様。（各種商品／苫小牧）
- ・7 月の景況感は前月より若干上向きに感じられた。全体的な売上は前年比、前月比ともにプラスだったが微増にとどまり、衣料販売業は顧客の需要がまったく感じられない。4 連休は地方からの人流も見られたが、観光に関連した業種のみ恩恵があったようだ。まん延防止等重点措置の影響もあり依然先行き不透明感は拭えないとの声が多かった。（各種商品／釧路）
- ・組合全体の前年比は 86%。食品・スーパー関連は前年比 88.6%、ホームセンターは 88%、その他一般店は前年比 77.8%と大幅ダウンとなった。連日の記録的な猛暑が集客を押し下げたと思われる。（各種商品／芦別）
- ・連休や夏休み効果で観光客が多く来店し、団体ツアーも徐々に戻っている。（鮮魚／釧路）
- ・前年より気温が高く、火気を使用する焼き魚・煮魚の売上が縮小している。（各種食料品／札幌）

非製造業（建設・運輸業）

- ・各地方自治体の公共工事は、例年と同程度の物件数が出てきているが、あまり大きな規模のものはない。国の物件は、規模は大きいものの数が少ないように思われる。民間工事はだいぶ動きが出ているように感じるが、労務費、資材費、その他の経費が大きくかかる傾向がある上、物件を受注するための価格競争が激化している。（電気工事／全道）
- ・市の公共事業は、7 月初めに当初予定されていなかった個別浄化槽設置工事が 3 本発注されたことで、昨年度より総体受注額は増加すると思われる。下旬にも本管工事が発注され、昨年より発注ペースは良いようだ。（管工事／名寄）
- ・組合員の個人事業主はスポット配送や引越の受注が落ち込んでいる。本部の共同受注配車手数料は前々年比 30%減と、コロナ禍の影響があるのではと考えている。協同組合等に所属せずフリーランスで軽貨物運送を生業にする個人事業主がかなりの数に上り、組合としては、配送品質研修会や個人事業主の心得などを指導し軽運送業界のレベルアップを目指しているが、フリーの業者が増加することで料金のダンピングやゴミの不法投棄につながることを懸念している。（一般貨物自動車運送／全道）
- ・全般的に貨物量は減っているが、後半から野菜の出荷が増加してきた。緊急事態宣言下で休業する飲食店が多く見受けられ、宣言解除後も以前の実績までは回復していない。一方で観光客は多少増えているようだ。（一般貨物自動車運送／小樽）
- ・軟弱野菜の出荷が最盛期となる時期だが、高温少雨のため生育状況、荷動きが悪い。馬鈴薯・玉葱も水不足のため生育状況が懸念されている。一般消費者向けの飲料は、暑さにより需要増となっているものの、飲食店向けはコロナの感染拡大により例年と比べると低調である。札幌市内主要部で交通規制が入ることから、一部貨物ではオリンピック開催前の前倒し需要があった。（一般貨物自動車運送／石狩）
- ・売上高は前年同月比 2.4%増加。乗務員数は前年同月比 15.4%減少。6 月分チケット取扱高は前年同月比 3.0%減少。（一般乗用旅客／旭川）
- ・燃料価格が上昇しており、収益に影響が出ている。（一般乗用旅客／苫小牧）

- ・先月同様、前年同期比で受注量は増加したが、原木入荷量は少なく、受注対応に苦慮している。昨年下げた原木単価はこの第一四半期で元に戻しているが、更に上がる傾向にある。（一般製材／中川郡）
- ・7 月の生コン出荷量は前年同月比 104.4%の約 385 万 m³。（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
- ・売上は依然低迷している。数十万規模のリフォーム物件や数少ない新築住宅への納品で売上を作っている状況。（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
- ・昨年比では好調だが、足元の収益は低調である。鉄鉄、スクラップ、シリコン、カーボン、銅、亜鉛、他鉄製品が昨年同期比 150%～200%に高騰中。以前のような投機的な高騰ではなく、世界的な環境転換によるものとの推測も見受けられる。製品価格転嫁をしなければ赤字に転落するほど収益を圧迫しているが、製品価格転嫁の成功例が増えてきている。（鉄鉄・スクラップ／全道）
- ・世界的な鋼材供給不足から鋼材価格の高騰が止まらない。資機材も高騰しており、新造船受注価格がいくら上昇しても利幅が減少してしまう状況。各社は大量受注を避けて建造供給量を平準化操業に努める傾向にあるが、残業がなくなるため収入が減少する組合員の発生が懸念される。（金属製品／室蘭）
- ・コロナの影響は依然残っているが、例年の時期的な仕事が出てきており、少しずつ持ち直しの動きが見られる。（金属機械工作／全道）

- ・原油価格は 4 月以降上昇傾向が続いている。原油価格のコスト増分は適宜小売価格に反映させているものの、安値市況が続く一部激戦地では地場中小零細企業の経営は厳しい状況。全国ベースでのガソリン販売量は、コロナ禍の影響で例年と比べ減少しており、7 月半ばは大きく減少したが、月後半は連休や夏休みの影響からか前年を上回ることもあった。依然としてコロナ前の状況には回復していない。まん延防止等重点措置の適用等による更なる企業活動及び人の流れの停滞や、高値感によるガソリン販売への影響が懸念される。（燃料／全道）
- ・コロナの影響に加え、平年以上の気温の上昇により LP ガスの需要が減少。原油価格も上昇しており、業界全体で厳しい経営状況が続いている。（燃料小売業／稚内）
- ・7 月卸値は、原油価格はほぼ横ばいで推移、小売店の販売価格も大勢は横ばい推移の模様。収支状況は従来と同じく量販店の攻勢により厳しい利益口銭に圧縮され、コロナによる減販の影響もあり、利益は圧縮状態が続いている。（燃料小売業／旭川）
- ・連日の酷暑で夏物商品の売上が伸びた。全体的に売上高は上向いたが、工事が追いつかない状況が続いている。（電機機械器具／全道）
- ・小売は対前年並でキープできている模様。新車価格の上昇により中古車の小売単価は年々上昇している。（中古自動車／札幌）
- ・点検・整備した自転車に貼付する TS マークが伸びており、自転車の利用人口は増えていると思うが、販売台数は著しく減少。自転車や部品の入荷遅れの影響が大きい。売る品がない状況。（自転車・自動車／全道）
- ・地元百貨店の 6 月売上高は、前年同月比 22.0%減の 3 億 622 万円。7 月共通駐車券の利用は前年同月比 82.40%、買物共通バス券は前年同月比 98.7%。緊急事態宣言が解除され、道内外の観光客が多少増えてきている。（帯広市／帯広）
- ・宿泊支援事業が再開するも道内客の動きは昨年比マイナスと良くない。国や道の支援策との相乗効果を期待していたが、再開の目処が立たない上、全道他地域の宿泊支援事業の割引額との差も影響したのではないかと推測している。一方で道外客は昨年比プラス。前年比増も、コロナ禍の影響は大きく、いずれも本来の数字ではない。宿泊入込数は令和元年比では半分以下と売上の損失は莫大。（旅館／音更）
- ・道内の中小 IT 企業は首都圏の大手・システム開発企業からの開発案件が伸び、案件消化に必要な開発エンジニアを中途採用することが急務となっているが、IT 人材は売り手市場のため確保が難しい状況。「残業削減などの働き方改革」「テレワーク導入などの働き方の柔軟性向上」など、就活者の生活や人生に配慮して採用活動が続ける中小 IT 企業が増加している。道内居住の開発エンジニアがテレワークで道外企業に勤務できることや、その逆もあるなど、採用の幅が広がると同時に難しさも顕在化し、人材の獲得はこれまで以上に厳しくなっている。（ソフトウェア／全道）